

令和４年度第１回安芸高田市総合教育会議議事録

日 時	令和４年９月２２日（金）午後２時から
場 所	市民文化センター４階 ４０２ 研修室
出席者の氏名	市 長 石丸 伸二 教 育 長 永井 初男 教育委員 山本 博明、金川 佳寛、広瀬 ゆみ子、迫広 淑文

【総務課行政係長】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和４年度第１回安芸高田市総合教育会議を開催します。

まず、本日の会議日程及び資料の確認をいたします。会議日程につきましては次第に記載のとおりです。配付資料の確認をさせていただきます。会議次第、資料１「保護者アンケートの結果を踏まえた今後の中学校統合について」、資料２「中学校統合に係る保護者アンケート集計結果」、資料３「中学校統合に係る児童・生徒アンケート集計結果」、追加資料１「中学校統合に係る保護者アンケートの集計結果（校数ごとの各アンケート項目の分析）」、追加資料２「中学校統合に係る児童・生徒アンケート集計結果（校数ごとの各アンケート項目の分析）」。

そして、委員の皆さまのみの配付資料としまして別冊資料「児童生徒アンケート新しい中学校に期待することから実現に向けての考察」。以上です。不足はございませんでしょうか。

それでは早速、次第に沿って進めて参りたいと思います。ここからの議事進行につきましては、石丸市長に議長を務めていただきたいと思います。それでは市長よろしく申し上げます。

【石丸市長】

改めましてお忙しい中お集まりくださいまして誠にありがとうございます。それでは、これから私の方で議長を務めさせていただきます。

早速協議に移りますが、本日は中学校規模適正化に向けた検討が議題になっていまして、先般お伝えをしてありましたアンケートの集計結果、そちらについて、皆さまに情報を共有するというのが今日の目的になります。では教育総務課長の方から説明をお願いします。

【教育総務課長】

それでは資料の説明をいたします。本日資料の１から３と追加資料１、２とございますが、まず初めに保護者アンケートの集計結果として資料２からお願いをいたします。

資料２「中学校統合にかかる保護者アンケート集計結果」です。中学校統合につきまして、現在小学校に通う児童の保護者、そして、保育所・幼稚園に通う園児の保護者を対象にアン

ケートを実施をいたしました。事前にお配りしておりますので、要点について説明いたします。まず、1 ページ。対象総数と回答率です。アンケート回収率は 82.9%。2 ページに、それぞれの結果に下段の方にコメントを付しておりますので、概要について読み上げます。まず問 2 校数についての問いは、2 校統合の選択が 39.1%で一番高く、1 校統合、3 校統合の選択は同数で、30.4%でした。ただし、美土里町・高宮町では、1 校統合を選択した割合が一番高い結果となりました。3 ページの統合の時期ですが、5 年から 10 年以内の選択が 49.9%で一番高く、次いでできるだけ早くが 34.2%、10 年以降が 15.5%でした。4 ページ問 3-2 です。回答の主な理由ということで、生徒数の減少が 41.1%で一番高く、次いで部活動が十分にできないが 30%、子供同士の多様な考えに触れる機会が少ないが 21.5%でした。5 ページをお願いします。問 4 統合を進める上で気になることはなんですかとの問いに、通学手段や通学時間が 24.4%で一番高く、次いで中学校の位置が 22.6%でした。

次いで問 5-1 新しい中学校に期待することはなんですかという問いに対して、表現力、コミュニケーション能力の向上が一番高く、次いで社会ルールやマナーを学ぶ、スポーツや体力の向上が次いでおります。最後 7 ページ。新しい中学校で心配なことはありますかという問いに対して、6 町とも心配なことは、通学・下校時間が 31.7%で一番高く、次いで人間関係が 24.7%という結果になりました。

続いて資料 3 をお願いいたします。中学校統合に係る児童生徒のアンケート集計結果です。対象は小学校 6 年生児童と中学生生徒全員でございます。回答率が 95.1%。2 ページにいて、問 1 統合する場合、校数はどう考えますかという問いに対して、児童生徒の場合は、3 校統合の割合が 40%で一番高く、次いで 2 校統合 32.2%。吉田地区、高宮地区、向原地区で 3 校統合の割合が一番高く、八千代地区、甲田地区では 1 校統合、美土里地区では 2 校統合の割合が高い結果となりました。3 ページの問 2-1 統合の時期として、5 年から 10 年以内の割合が一番高く、次いでできるだけ早くが 40.4%、10 年以降の統合は 15.2%という結果になっております。4 ページの問 2-2、問 1 で選んだ回答の主な理由ということで、統合の理由では、やはり生徒数の減少の割合が 45.1%、次いで部活動が十分にできないが、23%で続いております。5 ページの統合を進める上で気になることは何かという問いに対しては、通学手段、時間の割合が 24.5%、次いで中学校の位置が 22.6%となっております。問 4 新しい中学校に期待することはなんですかという問いに対して、友人が増えるが 18.7%で一番高く、次いで多様なクラブ活動・表現・コミュニケーションという選択が続いております。7 ページ以降は、それぞれ学校別に、問 1、問 2 等について、参考で記載をしておりますので、この後はお読み取りいただきたいと思います。

次いで、本日の追加資料 1、2 についてでございますが、こちらにつきましては、校数ごとの各アンケート項目の分析を行っておりますので、こちらについては、後程お読み取りをいただきたいという風に思います。

それでは最後に資料 1 に戻ってください。今後、このアンケート結果を踏まえて、生徒数、学級数、通学時間、中学校校舎の老朽化状況などを主な視点に今後、校数・時期につい

て具体的な案を示していくことになりますが、その検討資料として取りまとめたものでございます。

資料1で、まず3ページをお願いいたします。校数の検討といたしましては、(1)1校案の場合ですけれども、ここでは通学を考慮し、中心地である吉田町内の都市計画区域内とするということにしたいと考えております。下側に考察として、生徒数、校舎の状況、通学という3つの視点でそれぞれ考察コメントを入れておりますので、お読み取りください。

めくってもらって今度は、4ページ、5ページになりますが、4ページは、2校案の検討案です。2校案はまず案1として、アンケート時にお示しをしておりましたグループ分けをしております。AグループとBグループです。ただし、5ページになりますが、アンケート結果から通学時間を気にする割合が非常に高いということで2校案として次の案2の方を検討しております。案2につきましては、CグループとDグループと分けておりますが、Cグループを、吉田・八千代・向原のくくり。Bグループを、美土里・高宮・甲田のくくりということにしております。2校案については、この案2の方が、案1より通学の距離及び時間が短縮できるくくりという風になっております。

続いて6ページは、3校案でございますが、3校案は従前示したABCの3グループです。ただし、7ページへいって、3校案から更に検討した結果、美土里・高宮の保護者につきましては、1校統合を望む割合が高いということから、Aグループ吉田・八千代の方に美土里・高宮グループを編入させて4町と甲田・向原の2町に区分けしたプランとなります。

同じく次のページの3校から更に検討した結果ということで、先ほどの1校統合の支持が高い美土里、高宮について、今度は、甲田・向原の方にこの2町をくくった場合ということで想定をした生徒数見込みで、これが通学の距離の状況を記載しております。

9ページ以降は、ポイントのまとめと10ページのポイントをまとめたものでございます。11ページに統合時期の検討ということで、5年から10年の割合が一番多く、次いでできるだけ早くが34.2%であったわけですが、なるべく早く全ての条件が整った場合ということでスケジュールを示しておりますけれども、条例議決を含めて施設整備まで4年は要すると見込んでおります。

最後に12ページです。今後の取り組みですが、本日も含めて今後この総合教育会議で市長と教育委員との意見調整を行って、その後、各町で保護者・市民を対象とした説明会を開催しようと考えております。また、市民からの率直な意見を聞き取るための市民モニターの活用の検討や推進計画の素案に対しては、パブリックコメント等の実施の上、最終的には教育委員会会議で統合推進計画の策定、それから統合の基本方針等を決定していきたいという風に考えております。

本日の資料説明につきましては以上でございます。ありがとうございました。

【石丸市長】

ありがとうございました。まず、私の方から補足をさせていただきますと、今、教育総

務課長の方から案を検討しているという表現があったんですが、これはこの案について進めていこうというのではなく、案として例示していますという意味に留まっています。決まった方針はありません。

全体的な評価としては、現状がよく把握できたなと思います。それすなわち、保護者の方、実際の子供たち、皆さんが思う現在、将来の課題・問題認識というものが、相応に共有できているという事実が確認できたと思います。

一方で、いくつか案が示されたことから伺い知ることができるとおり、今この関係者のニーズですね、それを聞いただけでは問題が解決できそうにないというのもまた明らかになったかと思います。要は、皆さんの願いが発散した状態にありますので、例えば、数だけで言えば3校案が保護者の方では一番多いわけなんですけど、3校案のままいけば、距離でいえば美土里・高宮がセットになってくるかと思うんですが、それはそもそも美土里・高宮の総意には合わなかったりということで、今のままでは、前に進みようがないという状態になります。

先ほど説明があったとおり、これから先、この場では今回情報共有しましたので、さらには保護者の方に改めて説明やメリット・デメリット、中学校の統合を通して、何を実現しようとしているのか、子供たちにどんなより良い教育環境が提供できるか、それをお伝えしていくことが必要なのかなという風に思っています。

今日は情報共有を目的としていましたので、もし何か皆さんの方からご感想等あれば頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。迫広委員お願いします。

【迫広委員】

今、市長から情報共有できたというふうにありましたので、再度、私の頭を整理する意味で、このアンケートからうかがい知る範囲内でいえば、諸手を挙げて中学校統合に賛成ということはないけれども、これだけ子供の数が減ってくると統合もやむなしと。さらに、統合するのであれば、いい中学校を作ってほしいと。そういう願いもいくらうかがい知ることができる。ということは、今後、具体的に安芸高田市が中学校統合に向けて動いていく、その出発点が今日だというような受け止めをしてもよろしいですか。

【石丸市長】

私もそのように感じています。やはり新しいことを始める、生み出すというのは、相応にコストがかかる、大変なことになると思います。それを実際、特に保護者の方が感じてらっしゃる。言ってしまうと、少し不安に感じてらっしゃるところがあるかと思います。ただ、それでもやはり中学校統合を進めなければいけないというのは、より良い教育環境、もう少し踏み込んで言うと、今のままだとどんどん悪化してしまうという、この危機感だと思いますので、今日この場の出発点にこの当事者を中心にこのまちにとってより良い教育環境を整備していきたいなと思ったところです。

もしご意見、ご感想あればと思います。金川議員お願いします。

【金川委員】

資料1などを見させていただいて、どうしても2校案、3校案は、どうしても頭の中でこうだろうという2校案や3校案で固まっていて、いろんな通学時間を事情合わせたらこうだよ、いろんなページがあって、「ああそういうグループ分けもある」というようなところで、いろいろ考え方も重要なところがここだからこう考え方をしなければいけないというのは、考えさせられました。

資料を見て、アンケートを見た時にやはりできるだけ10年以内というくくりで考えると、相当な保護者の方がこの統合はやむを得ないだろうというようなアンケートにはなっていると思います。その中の回答の中でも生徒の数が減っているとか、ネガティブといえばネガティブな回答だと思うんですけども、せっかく統合する中で統合してよかったなと夢や希望を持てる、やっぱり統合いいなと、そういう形にできればいいんじゃないかなとおおざっぱな感想ですけど、そういう風には思いました。

【石丸市長】

ありがとうございます。広瀬委員お願いします。

【広瀬委員】

とてもさまざまなパターンで考えられた資料を見させていただいて、全員でよりよい中学校を作っていこうという気持ちはすごく前向きにあると思います。このアンケートの結果をすごく重要視して、まとめているので、これはとても大事なことで丁寧に進めるべきだという風に思います。このアンケートの内容をもう少し細かく分析して、深掘りすることで5年10年先に統合するとしても、今現在、中学生が過ごしているわけなので、今、現存する中学をどんな風にもっと良い方向にとか、それから希望が持てるかと言われたら、その10年先まで経たないうちに今、現在中学生がいるので、そこを大切に、今、生徒・児童、保護者が持っておられる思いをくみ取っていかなければならないと思います。

それからもう一つは、保護者の方も生徒も今、自分がいる中学校がこのままあったらいいなと多分願ってらっしゃるんですけども、実際問題生徒数の減少でこれでは保証されない何かが今後起きてくる危機感もお持ちだと思います。それら全てを丁寧にくみ取りながら、何校になるのかを今後きちんと考えていくのがいいかなとこの資料を全て見させてもらって思いました。

【石丸市長】

ありがとうございます。おっしゃるとおりで今の中学校がまず存在しますので、そこから将来に繋がるような筋道を我々としても立てないといけないなと思います。今、お話にあ

った、タイミングであったり、校数の話も本当に今回のアンケートはかなりまっさらな聞き方をしていますので、非常に自由度の高い多様なニーズが浮かび上がったなと思っています。ですので、ここから案にいくつかお示しをしてみたわけなんですけども、具体的に実現できそうなものは、これ、もしくは、これというパターンを分けていくことによって、より議論の精度が上げていけるのかなという風に思っています。その中で、みんなが思うものというのは実現が不可能なんですけども、より多くの方がより好ましいと思える状態は模索できるかと思いますので、今、まさに広瀬委員がおっしゃったとおり丁寧に議論を進めていきたいなと思います。山本委員お願いします。

【山本委員】

私も感想になると思いますが、聞かせてもらったり、資料を見させてもらって、大変分かりやすく丁寧にまとめられていると思います。今の時点での保護者、児童・生徒の思いや考えが私自身掴めたところでございます。これをもとに今後あるべき安芸高田市の中学校のあり方を検討していきたいなと考えています。

【石丸市長】

ありがとうございます。教育長お願いします。

【永井教育長】

私がアンケート結果を見てまず感じましたのは、平成 22 年 4 月に安芸高田市の学校規模についてという答申を受けています。その中で、安芸高田市において望まれる学校規模ということの中で大きく 2 点の答申を受けました。

1 点は、1 学年複数学級。その複数学級ということの 1 学級の人数は、20 人から 30 人程度ということの答申を受けました。それを受けて、小学校における学校規模適正化を進めてきたという経緯があります。残念ながら、この望まれる学級規模ということには、小学校は実現ができておりません。要するに 1 学年複数学級、或いは学級の人数が 20 人から 30 人というのはできておりません。したがって、これから具体的な議論を進めていく中では、是非中学校は、義務教育最後の 3 年間。言ってみれば、仕上げの 3 年間ということもいえると思いますので、是非望まれる答申の中にある 1 学年複数学級、1 学級 20 人から 30 人ということを実現できるような方向で議論ができれば是非したいなというのが個人的に思ったことです。

そのために、先ほど金川委員からもありましたが、これからの議論の中で是非、大人も市民も統合に向けて夢や希望が持てる、主役である子供たちが、大人以上に夢や希望が持てるようなそういう統合になったらいいなと漠然とした形ですが思っています。その中で、例えて言いますと、ハード面になると思いますが、校舎あたりも厳しい財政状況ではありますが、言い古された言葉かも知れませんが、やはり教育は先行投資ということが言われてきた

ように何とか市民の理解をいただきながら、ある意味本当に日本一の充実した中学校を建ててもらえるらしい、楽しみだなど、そういった思いができるような校舎の建築。そして、アンケートの中にもありましたが、部活動もやりたい。しかし、統合をしたら通学距離が延びるというのは、複雑な子どもたちの悩みも見え隠れしています。したがって、統合によって通学距離は増えたけど、部活動もしっかり時間を保障して、なおかつ帰宅時間は、統合前と変わらないというふうな、例えば、1日の時間割を5時間にしてでも部活動をしっかり保障し、なおかつ、下校して家に着いたら、統合前と少なくとも遅くならない時間に帰宅できるといったようないろんな角度から検討して、いずれにしても大人以上に子どもたちがワクワク感を持って、新しい中学校で学べるようなそういう統合にしたいなと個人的には思っています。

【石丸市長】

教育長ありがとうございます。今、言及してくださった答申の中身というのは、普遍性があって、今もこれからをやはりその方針が大事になろうかと思えます。そういう意味では、その点を改めて関係者の方を中心にご理解をしていただく、ここが重要になってくるかと思えます。その上で、制約と言っているのでしょうか。全てを叶えることは、それこそ物理的にまた財政的に不可能なところがありますので、制約の中でより良い形は何なのか、これを追求していきたいと思えます。ただ、永井教育長がおっしゃったとおり、この統合、どんな形になるにしても、今よりは、総合的に確実に良い教育環境になり、できるものだと考えますので、引き続き、時間の回答もあつたんですけども、こういうものは検討しているうちにあつという間に時間が経ってしまったところもあろうかと思えます。ですので、我々の側としては、可能な限り遅滞させることなく、この議論を進めていきたいとそうように考えます。

もし、皆さんの方からご意見があればと思うんですが。

では以上で、中学校規模適正化に向けた検討についての協議を終了させていただきたいと思えます。本日の協議は以上となりますが、その他での皆様から何かご連絡事項等あればと思えますが、よろしいでしょうか。

では、以上で令和4年度の第1回になりますが、総合教育会議を終了させていただきます。本当にお忙しい中どうもありがとうございました。